**陸域と海域のつながりを重視した**

**地域コミュニティが主体となったサンゴ礁保全及び管理に向けた**

**統合的アプローチの推進に係る決議**

**（仮訳）**

第29回ICRI総会（平成26年10月20－23日）が開催された沖縄では裾礁タイプのサンゴ礁が発達していることを銘記し、

裾礁タイプのサンゴ礁はとりわけ陸域からの影響が強く、その保全には陸域における人間活動と一体的に取組を進めることがとりわけ重要であることを認識し、

海と陸のつながりや人為的ストレスの影響を認識した上でサンゴ礁及びその関連生態系を管理していくため、ICRIの基軸である統合的管理を強調し、

ベリーズにおける第28回総会で採択された、「サンゴ礁及びその関連生態系の管理に向けた海洋保護区及びその他の仕組みのための協働型管理の活用に関する決議」を想起し、

海洋環境を陸上活動から保護するための地球行動計画（GPA）を想起し、

2011年に発刊された、集水域管理に係る11の提案を紹介しているGCRMNレポート「集水域管理とサンゴ礁の保全―優良事例及び事例研究に基づく集水域由来の被害の減少を目的とした沿岸資源管理者のための実用ガイド―」 を想起し、

生物多様性条約第12回締約国会議において採択された、愛知目標１０の達成のためのサンゴ礁及び関連生態系の最優先行動を含む海洋及び沿岸生態系に関する決議を銘記する。

**上記に基づき、ICRIはメンバーに次の行動を奨励する。**

海と陸のつながりを重視した、地域コミュニティが主体となったサンゴ礁保全や管理への統合的アプローチの利点を考慮し、

第29回総会でのテクニカルワークショップやGCRMNレポートで報告された裾礁保全のための集水域管理の事例から得られた教訓を要すれば活かし、

関連集水域の保全と管理を一体化して進める、地域コミュニティが主体となった保全と管理の取組の促進に関係する利害関係者間の協働を、適切な場合には、促進し、

関連する会議や組織、イニシアティブが提供する場を通し、情報や経験の共有に貢献する。

**上記に基づき、ICRIは事務局に次の要請をする。**

提出されたICRIメンバー報告書から、海と陸のつながりを重視した、地域コミュニティが主体となって進めるサンゴ礁保全管理への統合的アプローチに関する事例を収集し、それらについてGCRMNレポートを参考にとりまとめ、

タイで開催される第30回総会で、上記に基づきとりまとめた事例について報告し、

とりまとめた情報について、ICRIメディアや他の有効且つ適切なメディアを通し、発信する。

**上記に基づき、ICRIはメンバーに次の要請をする。**

事務局の要請に基づき、すでに提出されているメンバー報告書に加え、さらなる情報の提供を通じて、事例のとりまとめを援助し、

長期的利益をもたらす、海と陸のつながりを強調した地域ベースのサンゴ礁保全や管理への統合的アプローチを、適切な場合には奨励し、

とりまとめた事例の普及にあたって、ICRI事務局を支援する。